

北海道大学 II

ロバスト防災シンポジウム

北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点(10月1日、同大において、「第2回防災技術イノベーション」研究会 Robust BOSAIシンポジウム)を開催した。

近年、北海道の農林水産業のフィールドは、従来の発想では対応できないような自然災害に脅かされており、「新たなステージ」に進みつつある自然災害に対する防災力強化、フィールドのロバスト化(堅牢化)は喫緊の課題と言える。この現状を踏まえ、北海道大学とロバスト農林水産工学科学技術先端研究会は、「Society 5.0」を目指した高度な技術やノウハウの共有、新たな研究開発、防災教育と人材育成までを実現するため、昨年度「ロバスト農林水産工学研究開発プラットフォーム」を立ち上げ、現場ニーズに基づく次世代農林水産工学の技術開発を進めている。

今回のシンポジウムでは、昨年9月に発生した北海道胆振東部地震から学ぶ複合災害対策に焦点を当て、産学官のこれまでの調査で得た知見について解説するとともに、昨年度設立した「ロバスト農林水産工学研究開発プラットフォーム」の活動成果報告も交え、今後の課題や発展について議論した。

シンポジウムでは、小林利道(株)大林組設計本部プロジェクト設計部長による「森林と共に生きる街『LOOP50』建設構想」と題した基調講演が行われ、木材を用いた循環型都市の将来像が提示され、続いて、古川泰人(株)MERUINI取締役による「Open」であること」と題した基調講演が行われ、インタラクティブな情報の重要性が示された。

後半は、同大教授らから講演があり、地震から一年間追跡した調査内容や、震災時に必要な工学技術などについて紹介があり、パネルディスカッションが行われた。

弘前大学、フォーラム 人生100年時代の健康未来

弘前大学と青森県、弘前市は、JST共催のもと、10月4日、「ヘルシーエイジング・イノベーションフォーラム2019」を一橋講堂(東京都千代田区)で開催した。

フォーラムでは、「健康BD」と「新健診モデル」でQOL(生活の質) & GNH(幸福度)を最大化しSDGsへ貢献することを目的とした弘前大学COIの取組みについて、最先端の研究成果等を紹介したほか、社会実装の進捗状況など、産学官民各界の第一線で活躍している関係者が参集し発表が行われるとともに、熱い議論が展開された。

開会にあたり、佐藤学長

佐藤学長



菱山科政局長



松田譲氏



前大学COI拠点長・研究統括(RL)・弘前大学大学院医学研究科特任教授の中路重之氏が

「『啓発型健診』で世界展開をめざす」と題し、最新の研究、特に「啓発型健診(新健診モデル)」やその取組みについて発表した。

また、明治安田生命保険取締役会長代表執行役の鈴木伸弥氏が「健康コンシェルジュとしての新たな生保モデルの追求」、(株)ミテル取締役会長/広島大学副理事の田原榮俊氏が「テロメアによる未病改善への挑戦」、料理研究家の浜内千波氏が「減塩のススメ」と題してそれぞれ特別講演。そのほか、「人生100年時代の健康未来を考える」をテーマにしたパネルディスカッションなどが行われた。

弘前大、国大協

東北 地区 国立大学等会計事務研修

弘前大学は国立大学協会東北支部と共催で、10月16日(18日)、会計事務職員の業務遂行能力の向上と意識改革を図ることを目的に、2019年度東北地区国立大学法人等会計事務研修を弘前大学で開催した。研修には、東北地区の大学及び高専8機関から推薦のあった39名が参加した。

初日は、文科省高等教育局国立大学法人支援課支援第四係の廣末賢太係長による「国立大学法人等を巡る最近の動向」、財務省主税局調査課外国調査第二係の丸山友理係長による「税制の現状等」についての講義が行われた。2日目以降は、有限責任あずさ監査法人による「国立大学法人等の会計(基礎編)」、「国立大学法人等における固有論点(不正事例を踏まえて)」、「国立大学法人等の会計(固定資産会計編)」の講義・演習及びグループディスカッションが行われた。